

仙台市議会議員  
(泉区)

# 細野 たかし



発行：民主フォーラム仙台 編集：細野たかし 〒981-8671 仙台市青葉区国分町3-7-1

市議会議員として活動を始め2年目となりました。これまで様々な面でお支えいただきました皆様に深く感謝申し上げます。新型コロナウイルス感染症に伴い、日々の暮らしに多大な影響が出ておりますが、所属する会派「民主フォーラム仙台」の一員として、仙台にお住まいの皆様の声を市政に反映して参ります。皆様のご意見をお聞かせください。

## 細野 たかし プロフィール

- 1981年(昭和56年)3月生まれ(39歳)
- 岩手県盛岡市 出身
- 家族:妻、長女、長男、次女、犬1頭
- 2019年(令和元年)8月仙台市議会議員選挙 初当選

## 令和2年 第2回定例会 一般質問概略

### ○ 休校による市立学校の教育課程の削減と児童の学習機会の補償について

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため3月中旬から5月末まで実施された一斉休校に起因する、市立学校の教育課程の削減と児童生徒の学習機会の補償にあたっての対応策について質しました。当局は、夏期休業日を削り、その日数を代替授業日に充てる事と併せ、文科省は小中学校の最終学年以外においては2年度に渡り教育課程の履修延伸を認めており、それをもって教育課程の遅れを解消すると答弁。しかし、どの学校でも学校指導要領に定められた基準は満たせども、それ以上の学習機会の確保は各学校の裁量とされており、差が生じる事を指摘。また、どの学校に通っていても児童生徒の体験・経験を出来る限り補償し、底上げをした上での均一化を図るべきと追及しました。



### ○ 特別支援学級におけるフェイスシールドの活用について

授業中はもちろん、学校生活においてマスク越しでは教職員の表情が読み取れず不安に思う児童もいる事や、マスク着用を嫌がる児童もいる事から、県立特別支援学校の取り組み事例を参考に、円滑なコミュニケーションが取れるよう口元や表情が見える透明なフェイスシールド等を積極的に市立小学校に導入するよう当局に強く求めました。

### ○ コロナ禍における災害時避難所運営と消防団員活動時の感染対策について

これまでの避難所運営とは違い、コロナ禍における避難所開設時は3密を避けるため換気も求められるなか、台風などで窓を開けられない場合の対応について質問。また、そのための避難者間の距離をより広く保つため体育館に収まりきらない場合は教室も利用するという答弁に対し、その分の職員体制の確保についての見解も求めました。

豪雨により所属する地元消防団に配備が掛かり参集した際、待機所にマスクや手指消毒薬などの衛生品の配備が行き渡っておらず、自前の物資に頼らざるを得なかった状況を取り上げ、災害から地域の安全を守るために活動なさっている消防団員の方々が安心して参集・活動できるよう、速やかに配備を完了するよう求めるとともに、コロナ禍に配慮した参集マニュアルの作成と周知を徹底するよう強く求めました。

## 令和2年度 第3回定例会 決算等審査特別委員会 第2分科会 (概略)

### ○ 交通安全総合対策等について

市民費における「交通安全総合対策費」の決算額7,230万円余に関連して、市立小中学校等で行われた令和元年度の事業、特に交通安全教室や杜の都の自転車プランについて概要と実績に対する質問を行いました。

杜の都の自転車プランでは、各区が設けたモデル事業やその他の事業において泉区のみ小学校での開催がない点を指摘。



中高生を対象とした交通安全教育の手法の一つであるスケアード・ストレイト方式(スタントマンが事故の再現を実際に行う方法)を導入した交通安全教室の有効性と次年度継続を求めました。

市内自転車事故の過去7年間の発生件数の推移について、発生件数は減少傾向にあるものの、第一次当事者(加害者側が自転車)の数は横ばいであること、内訳も20歳代以下がおよそ半数を占めている状況を指摘。次年度以降、さらなる交通安全教育の充実と次期杜の都の自転車プラン策定に向けた所見を市民局長に求めました。



## ○ 仙台版防災教育推進について

教育費における「仙台版防災教育推進」の決算額587万円余に関連して、教育現場における防災教育の取り組み状況について質問を行いました。

市内で民間企業が主催、仙台市が後援した「第1回みやぎ・せんだい防災アクティブラーニング」というイベントを例に挙げ、子どもたちに自分たちの住む地域の危険箇所などの気付きを、グループワークやディベートを取り入れるなど教員からの一方通行ではない方法での自発的な学習を求めました。また、仙台防災ハザードマップにも掲載されている、個人の避難計画「マイ・タイムライン」の周知、防災教育に取り入れ、災害発生時の行動を考える機会とするよう併せて求めました。

関連して、教育費における「地域社会教育推進」の決算額670万円余について、市民センターでの防災関連事業に対し質問を行いました。仙台防災ハザードマップは市から各世帯へ配布されていますが、高齢者には地図の文字が小さく敬遠されがちであるため、市民センター等で地域ごとに防災学習事業の実施が重要であることを指摘し、所見を求めました。

## ○ 校務支援システムの運用について

教育費における「校務支援システム運用等」の決算額6,840万円余に関連して、校務支援システム事業の概要と令和元年度の取り組み実績について質問を行いました。

システムの効果について年2回のアンケートを学校現場に対し実施しているものの、課題の早期発見のため校長会や各種研修時の機会を利用し随時情報収集するよう求めました。また、子どもたちの事を思えば、無くすことの出来ない業務が今後も増え続けることが予想される一方、子どもに寄り添う心の余裕を確保するため教員の業務量軽減が待ったなしの状況にあることの認識と、その進め方について所見を求めました。

関連して、教育費における「教科指導エキスパート」の決算額232万円について、若手教員の教科及び学級運営をサポートする「教科指導エキスパート派遣事業」と「学力サポートコーディネーターの派遣事業」に対し質問を行いました。両事業は新入教員にとって効果が期待されるとともに派遣数も多い点は評価するものの、成り手不足の課題をどのように解決するのか、当局の所見を求めました。

## 令和3年度 仙台市予算 会派要求書提出

去る10月23日に郡市長へ令和3年度の当初予算編成にあたり、所属会派「民主フォーラム仙台」として、新型コロナウイルス感染症への早急な対応、子どもの命を守る教育と次世代支援、地域経済の活性化と雇用の確保、防災・減災および持続可能な環境に配慮したまちづくりなどを含む7分野94項目を盛り込んだ会派要求書を提出しました。これに対し郡市長は「21世紀半ばを見据えた本市の方向性を示す重要な予算になる。要望は出来るだけ多く反映できるように努める。」と応じました。引き続き市民生活の発展のため市政へ意見反映を続けて参ります。



**実際の質疑・答弁の様子は市議会ホームページ(録画)でご覧になれます。**

[http://www.sendai-city.stream.jfit.co.jp/?tpl=speaker\\_result&speaker\\_id=223](http://www.sendai-city.stream.jfit.co.jp/?tpl=speaker_result&speaker_id=223)

